

<研究名称>

顔面神経麻痺に伴い発症した病的共同運動に対するボツリヌス毒素・ミラーバイオフィードバック併用療法の実施

<研究申請者>

耳鼻咽喉科 長峯 正泰

<研究期間>

倫理委員会承認日より

<研究の目的・意義>

病的共同運動とは、ある表情運動を行うと意図しない表情筋まで不随意に収縮してしまう現象であり、末梢性顔面神経麻痺の後遺症のうち最も高頻度に出現する症状である。

その予防にはミラーバイオフィードバックによる顔面リハビリ治療の有効性が報告されている一方、一度発症するとその治療は困難であり、患者はその不快な症状に悩み続けることになる。

近年、最初にボツリヌス毒素を注射し病的共同運動を軽快させた後に、ミラーバイオフィードバック療法を行うボツリヌス・ミラーバイオフィードバック併用療法の有効性が報告されている。当科においても治療困難な病的共同運動を発症した患者を抱えており、ミラーバイオフィードバック単独でのリハビリでは改善不十分であり、今後この併用療法導入が必要と考えた。

<実施内容（方法）、危険性（副作用）等>

最初に一度だけボツリヌス毒素（商品名 ボトックス、GSK）を注射し病的共同運動を消失させ、ミラーバイオフィードバック療法を 10 か月行う。ボツリヌス毒素は患側眼輪筋 4 か所に、1 部位あたり 1.25 単位を投与する。

ミラーバイオフィードバック療法は、鏡を見ながら閉瞼が起こらないように 3 種類の口運動「ウー」「イー」「プー」を行うように指導する。

病的共同運動の程度ならびに治療の効果は、治療前、治療後の瞼裂比（患側の瞼裂高と健側の瞼裂高の比）を用いて評価する。

副作用については、メーカーから提供されている同意書を用いながら中の記載にあるように、眼瞼下垂（2.19%）、兎眼・閉瞼不全（2.14%）、流涙（1.04%）などを説明する。ミラーバイオフィードバックに伴う副作用発現は、禁止事項である 1) うつむいた姿勢で練習しない、2) やみくもに力を込めた練習をしない、3) 鏡を用いない練習をしない、といった点をしっかり指導することでろくに問題は生じないと考えられている。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

耳鼻咽喉科 部長 長峯 正泰

<倫理上問題になると考えられる事項、その他特記事項>

なし

<ICのための説明・同意に関すること>

同意書あり

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 耳鼻咽喉科 長峯 正泰

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648